

令和 8 年 9 月吉日

各 位

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
交流企画部会長 柿沼太郎

国際島嶼教育研究センター第 261 回研究会のご案内

国際島嶼教育研究センター第 261 回研究会を下記のとおり開催いたします。皆様方の多数のご参加を心よりお待ちしております。

記

日 時：令和 8 年 9 月 28 日（月）16 時 30 分～18 時
会 場：総合教育研究棟 5 階 国際島嶼教育研究センター会議室
（〒890-8580 鹿児島市郡元 1 丁目 21-24）
中 継：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室
（〒894-0026 鹿児島県奄美市名瀬港町 15-1 奄美群島大島紬会館 6 階）
WEB：Zoom
参加費：無料（通信費は参加者負担）

旧石器時代の種子島

寒川朋枝（鹿児島大学埋蔵文化財調査センター）

本発表では、種子島地域における後期旧石器時代の特徴について述べる。また、周辺地域や近年増加している琉球列島における調査成果にも触れ、現状での各島嶼部における文化的特徴の概略について述べる。

中種子町立切遺跡、南種子町横峯遺跡は、後期旧石器前半期の約 35000 年前頃の種子島最古の人類の痕跡が認められる貴重な遺跡であり、2022 年には国指定史跡として指定された。立切遺跡では陥し穴遺構や礫群といった遺構が検出されている。また多くの礫石器が出土していることも特徴であり、発表者はそれら遺物の残存デンプン分析を行い、植物質食糧が加工されていたことを示した。類似する状況は指宿市西多羅ヶ迫遺跡でも確認されている。

後期旧石器前半期以降の種子島地域で石器群が認められる時期は、現時点では後期旧石器時代末期の細石刃石器群の時期になる。正確な年代データが不足しているが、恐らく 1 万年ほどの空白期間が存在している。一方、沖縄以南については近年の発掘調査成果から継続的な人類活動が確認されており、各島嶼部での適応戦略を示している可能性がある。

【対面式でのご参加（要登録）】

対面式でのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールまたは電話にて 9 月 24 日（木）までにお知らせください。

お名前（必須）：

お電話番号（必須）：

ご所属先：

ご住所：

メールアドレス：

メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きのうえ、メールアドレスも必ず記入してください。

【オンライン（Zoom）でのご参加（要登録）】先着 100 名様

インターネット環境とパソコン、スマートフォン、タブレット等があれば、ご自宅やオフィスからお気軽にご視聴いただけます。通信費は参加者負担となります。

オンラインでのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールにて 9 月 24 日（木）までにご連絡ください。Zoom の視聴方法については、参加登録後に届く、登録確認メールをご覧ください。

お名前（必須）：

メールアドレス（必須）：

ご所属先：

ご住所：

メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きください。

【ご連絡先】

対面式（申込期限：9 月 24 日（木））

センター会議室：shimaken@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 099-285-7394（担当：井手元）

奄美分室：amamist@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 0997-69-4852（担当：若師）

オンライン（Zoom）（申込期限：9 月 24 日（木））

sotayama@cpi.kagoshima-u.ac.jp（担当：山本）